

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



つまみかんざし

いし だ とし しげ
石 田 利 重

(平成2年度作品)

16mm映画・ビデオ
カラー・18分

プロフィール

住所、荒川区町屋4-24-17

大正4年(1915)、東京生まれ。

昭和62年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

父親もかんざし職人だったが、早くなくなったため、13歳のとき、いとこのかんざし職人について修業。昭和12年(1937)に独立。

現在、長男の一郎さんや親しい人々と一緒に、斬新なアイデアを求めながら、江戸つまみかんざしづくりに打ち込んでいる。

かんざしは、髪挿しの音便で、天平のころの大宮人が「釵子」とか、「挿頭子」と呼んで、桃の小枝や菖蒲の花を冠や髪にさしていたことから、この名がついたといわれている。

今日、七五三や成人式、結婚式の花嫁の髪を飾るときに多く用いられている。

昭和63年、秋の叙勲で勲七等青色桐葉章を受章。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

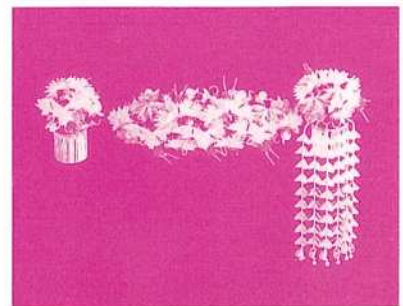
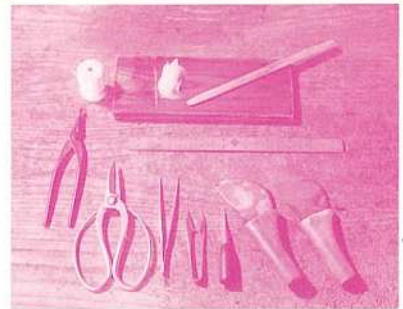
用具・工具

生地（絹の羽二重）、ピンセット、裁ち包丁、ハサミ、ヤットコ、糊板、絹糸（極天糸）

工程 —「松竹梅」三点セットの場合—

- (1) 生地（絹の羽二重）を、裁ち包丁で正方形に切る。
- (2) ピンセットで、丸、角、筋につまみ、折りたたみ、糊板の上に揃えていく。
(この作業の様子から「つまみかんざし」と言われている)
- (3) 梅の花やつほみをのせていく。
- (4) 鶴をつくる（正面鶴、横飛び鶴など）。
- (5) 竹をふく（竹の形を生地で作ることを、竹をふくという）。
- (6) 松をふく。
- (7) 極天糸と呼ぶ丈夫な絹糸を使って、組み上げていく。
- (8) 梅の花や鶴などを取り付け、飾りのピラや足をつけていく。
- (9) 松、竹、梅それぞれの配置を考え、仕上げの組み作業を行う。
- (10) つまみかんざしの種類は、大別すると、くす玉、半くす、平打、花櫛などに分けられる。

石田利重さんの作品のなかで特色のあるものは、金魚、藤棚、蝶々、乱菊などである。



利用される方は……………☎3891-4349

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区荒川図書館で貸し出しています。
貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。